NIWA F.D.

50th ANNIVERSARY

丹羽消防 創立50周年 記念誌









ごあいさつ



丹羽広域事務組合
管理者　鈴木雅博
（大口町長）

このたび、丹羽消防は創立50周年という節目の年を迎えることができました。この記念すべき年にあたり、これまで支えてくださった地域住民の皆さま、関係機関の皆さま、そして歴代の消防職員の皆さまに、心より感謝と御礼を申し上げます。

昭和50年に扶桑町と大口町により前身の丹羽消防組合を発足して以来、様々な災害対応に加え、防火意識の啓発活動に力を注ぎながら、「安全・安心なまちづくり」の一翼を担ってまいりました。創立当時の人口は両町合わせて４万１千人余り、16名の職員で消防行政をスタートさせ、令和７年４月現在では、両町人口は５万８千人超となり、90名の消防職員で日々の任務を遂行しております。

人口増加や社会環境の変化により、消防を取り巻く環境は日々変化しております。その中であっても、地域の皆さまに信頼され、必要とされる存在であり続けるために、全職員が高い使命感と誇りをもって職務に取り組んでおります。この50年の歴史を礎に、「地域に寄り添う消防」として、日々研鑽を重ね、さらなる信頼と期待に応えるべく努めてまいります。

結びにあたり、今日までの感謝とともに、引き続き皆さま方のご支援、ご協力をお願い申し上げ、創立50周年の挨拶とさせていただきます。



丹羽広域事務組合
副管理者 鯖 瀬　武
（扶桑町長）

丹羽消防は、昭和50年10月に大口町と扶桑町の２町における消防行政を所管する一部事務組合として発足してから、令和７年10月で50年が経過いたします。50年間にわたり活動できましたことは、これまで長年にわたり地域住民の生命・財産を守り続けてこられた歴代消防職員の強い使命感や努力の積み重ねに加え、地域住民の皆さまをはじめ、関係機関の皆さまの多大なるご支援の賜物と心より感謝しております。

昭和50年の前身となる丹羽消防組合創立以来、火災・救急・救助活動をはじめとする多くの任務を昼夜問わず、そして時に危険を顧みず遂行してまいりました。その不断の努力が、丹羽郡の安全と安心を支える礎となっております。

本記念誌には、これまでの50年間の歩みとともに、先人たちの知恵と努力、そして地域との強い絆が詰まっております。これからも、変化する社会の中で使命感と責任感を持ち続け、「信頼される消防」であり続けられるよう取り組んでまいります。

結びに、今後も皆さま方からのより一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げ、創立50周年の挨拶とさせていただきます。

創立５０周年を祝して



丹羽広域事務組合議会
議長　千田勝文
（扶桑町議会議員）

このたび、丹羽消防が創立50周年という節目の年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。あわせて、記念誌の発行にあたり地域住民の生命と財産を守るため、献身的にご尽力いただいているすべての関係者の皆さまに対し、深く敬意と感謝の意を表します。

50年にわたる消防本部の歩みは、地域社会の安全・安心を支えるという崇高な使命のもと、幾多の災害や困難に立ち向かいながら築かれてきた、尊く誇り高い歴史であります。

私たち議会といたしましても、今後も消防行政の発展と充実に向けて、必要な支援と協力を惜しまぬ所存です。

結びに、丹羽広域事務組合消防本部のさらなるご発展と、職員皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げて、創立50周年にあたってのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

創立５０周年を迎えて



丹羽広域事務組合
消防本部
消防長　脇坂裕憲

丹羽消防が昭和50年10月に発足して、50周年を迎えられたことを心から感謝申し上げるとともに、これまで諸先輩方が、様々な形で当消防本部の発展のためにご苦労やご尽力いただいたことに対して深く敬意を表します。

丹羽消防は、前身の丹羽消防組合から平成14年に丹羽広域事務組合に組織名が変わり、現在、１消防本部１消防署２出張所、90名で住民の安全安心のため日夜職務に精励しているところでございます。昨今では、自然災害の多発や社会情勢の変化により、消防の果たすべき役割は、ますます多様化し、責任も一層重くなっております。そのような中にあっても、すべての職員が高い使命感と誇りを胸に、住民の命と暮らしを守るため、日々鍛錬を重ね、職務に邁進しております。

このたびの記念誌では、創立から現在に至るまでの積み重ねてきた歴史や先人の功績を振り返るとともに、私たちが次なる半世紀に向けて新たな一歩を踏み出す契機ともなればと願っております。

結びに、今後も引き続き皆さまのご理解とご協力を賜るとともに、より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、記念誌発刊に際しての挨拶とさせていただきます。

50th ANNIVERSARY NIWA F.D.

概要 OVERVIER

NIWA FIRE DEPARTMENT



扶桑出張所



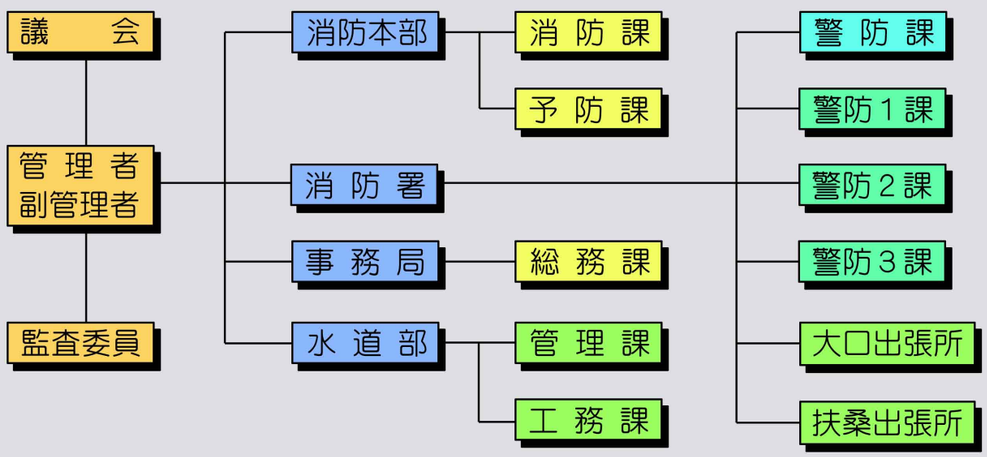
丹羽広域事務組合
消防本部・消防署



大口出張所

丹羽郡（大口町、扶桑町）
面積　24.80㎢
人口　58,915人
令和７年４月１日現在

丹羽広域事務組合組織図



沿革 HISTORY

1975（昭和50年）

10月 **丹羽消防組合発足（仮庁舎）**
予防・救急業務開始
救急自動車２Ｂ型（日本船舶振興会より寄贈）・広報車兼指令車
職員16名　　管内人口41,625人　　当初予算117,000千円



仮庁舎

1976（昭和51年）

4月 大口町から水槽付消防ポンプ自動車　１台譲受
7月 **本部庁舎竣工**
大口町から消防ポンプ自動車　１台譲受　扶桑町から消防ポンプ自動車　１台譲受
11月 日本損害保険協会から救急自動車３Ｂ型寄贈

1977（昭和52年）

8月 **第６回東海地区消防職員救助技術発表会に初出場**
11月 化学消防ポンプ自動車Ⅱ型　１台購入

1978（昭和53年）

12月 小型動力ポンプ付水槽車Ⅰ型　１台購入

1979（昭和54年）

5月 指令車　１台購入

1982（昭和57年）

4月 扶桑町から職員１名派遣
12月 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型　１台購入

1983（昭和58年）

4月 消防ポンプ自動車ＣＤ－Ⅰ型　１台購入

1984（昭和59年）

5月 先行車　１台購入

1986（昭和61年）

12月 査察車　１台購入

1987（昭和62年）

3月 消防ポンプ自動車ＣＤ－Ⅰ型　１台購入
9月 救急自動車２Ｂ型　１台購入
12月 はしご付消防自動車30ｍ級　１台購入

1988（昭和63年）

12月 救助工作車Ⅱ型　１台購入

1989（平成元年）

5月 資材搬送車　１台購入
7月 指令車　１台購入

1990（平成 2年）

12月 丹羽危険物安全協会から連絡車寄贈

1991（平成 3年）

3月 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型　１台購入

1992（平成 4年）

3月 愛知県共済生活共同組合から救急自動車２Ｂ型　１台寄贈
7月 指揮車　１台購入

1993（平成 5年）

4月 日本消防協会へ１名派遣（２年間）
7月 大口町（４年間）及び扶桑町（５年間）から各１名派遣

1994（平成 6年）

4月 **中華航空140便墜落事故（名古屋空港）　消防応援出動**
6月 広報車　１台購入



本部庁舎



化学消防ポンプ自動車



救助訓練

1995(平成 7年)
1月 **阪神・淡路大震災　消防応援出動**
9月 財団法人日本消防協会から広報車　１台寄贈

1996(平成 8年)
3月 丹羽消防署扶桑出張所　竣工
4月 **丹羽消防署扶桑出張所　業務開始（車両３台配備）**
水槽付消防ポンプ自動車II型・消防ポンプ自動車ＣＤ－Ⅰ型・救急自動車２Ｂ型

1998(平成10年)
3月 丹羽消防署大口出張所　竣工
高規格救急自動車　１台購入
4月 **丹羽消防署大口出張所　業務開始（車両３台配備）**
水槽付消防ポンプ自動車II型・消防ポンプ自動車ＣＤ－Ⅰ型・救急自動車２Ｂ型

1999(平成11年)
2月 消防ポンプ自動車ＣＤ－Ⅰ型　１台購入
3月 化学消防ポンプ自動車II型　１台購入



救助大会

2000(平成12年)
3月 小型動力ポンプ付水槽車Ⅰ型　１台購入

2002(平成14年)
3月 **丹羽消防組合　解散**
4月 **丹羽広域事務組合　発足（消防本部・水道部）**
職員76名　　管内人口53,463人　　当初予算769,040千円
扶桑町と人事交流１名（２年間）

2003(平成15年)
2月 高規格救急自動車　１台購入
8月 **第32回全国消防救助技術大会出場（ロープブリッジ救出）**
10月 査察車　１台購入

2004(平成16年)
4月 大口町と人事交流１名実施（２年間）
緊急消防援助隊に登録
8月 **第33回全国消防救助技術大会出場（ロープブリッジ救出）２年連続**

2005(平成17年)
3月 資材搬送車　１台購入
8月 **第34回全国消防救助技術大会出場（ロープブリッジ救出）３年連続**

2006(平成18年)
3月 水槽付消防ポンプ自動車II型　１台購入
11月 救助工作車II型　１台購入

2007(平成19年)
4月 愛知県防災航空隊へ１名派遣（３年間）
11月 はしご付消防自動車30ｍ級　１台購入

2008(平成20年)
2月 社団法人日本自動車工業会から高規格救急自動車　１台寄贈
4月 扶桑町と人事交流１名（２年間）
8月 連絡車　１台購入

2009(平成21年)
4月 愛知県消防学校へ１名派遣（２年間）
9月 広報車　１台購入

2010(平成22年)
11月 指令車　１台購入


訓練風景

2011(平成23年)
3月 **東日本大震災　緊急消防援助隊出動**
4月 愛知県へ１名派遣（１年間）
12月 高規格救急自動車　１台購入

2012(平成24年)
3月 大口町から警防連絡車　１台譲受
8月 広報車　１台購入
12月 CAFS付消防ポンプ自動車　１台購入

2013(平成25年)
12月 CAFS付水槽付消防ポンプ自動車　１台購入

2014(平成26年)
12月 指揮車　１台購入
CAFS付消防ポンプ自動車　１台購入


訓練風景

2015(平成27年)
8月 **第44回全国消防救助技術大会出場（基本泳法）**

2016(平成28年)
4月 尾張中北消防指令センター運用開始（常時３名派遣）
愛知県へ１名派遣（１年間）

2017(平成29年)
4月 愛知県消防学校へ１名派遣（２年間）
名古屋市消防局へ１名派遣（１年間）

2018(平成30年)
2月 高規格救急自動車　１台購入
7月 **平成30年7月豪雨（岡山県）　緊急消防援助隊出動**

2019(平成31年)
1月 災害対応特殊化学消防ポンプ自動車II型　１台購入
4月 名古屋市消防局へ１名派遣（１年間）


点検風景

2020(令和 2年)
1月 小型動力ポンプ付水槽車Ⅰ型　１台購入
4月 愛知県防災航空隊（現名古屋市消防航空隊）へ１名派遣（３年間）

2021(令和 3年)
1月 資材搬送車　１台購入
7月 **熱海市伊豆山土石流災害　緊急消防援助隊出動**

2023(令和 5年)
2月 CAFS付水槽付消防ポンプ自動車　１台購入
4月 愛知県消防学校へ１名派遣（２年間）
扶桑町へ１名派遣（３年間）
大口町へ１名派遣（２年間）

2024(令和 6年)
1月 **能登半島地震　緊急消防援助隊出動**
2月 高規格救急自動車　１台購入（救急３号車）

2025(令和 7年)
2月 高規格救急自動車　１台購入（救急１号車）
4月 愛知県へ１名派遣（１年間）
大口町へ１名派遣（２年間）
職員90名（再任用３名含む）　　管内人口58,915人　　当初予算993,000千円

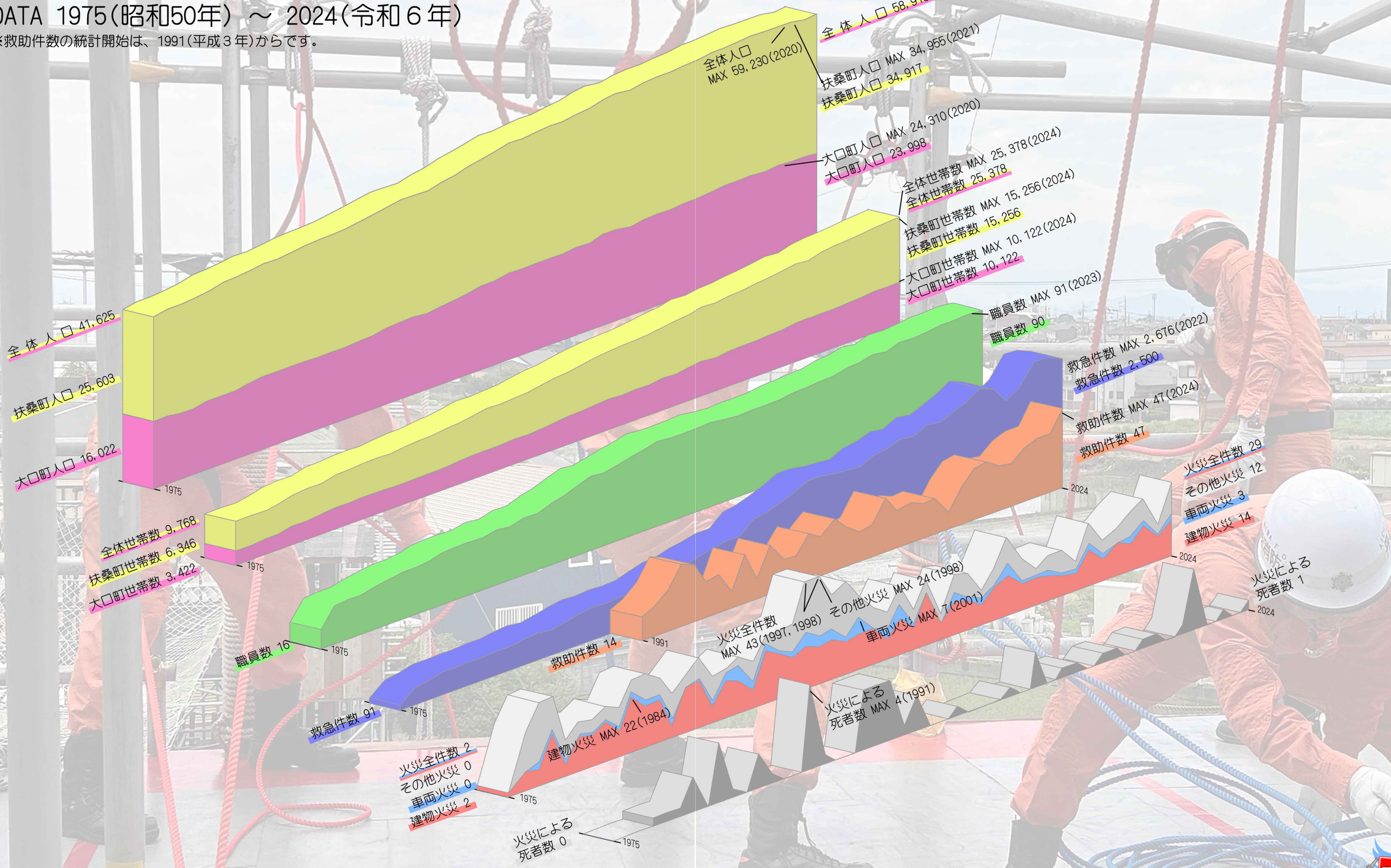

本庁舎（増築後）

統計 STATISTICS

NIWA FIRE DEPARTMENT STATISTICS 統計

DATA 1975（昭和50年） ～ 2024（令和６年）

※救助件数の統計開始は、1991（平成３年）からです。



紹介 INTRODUCTION

NIWA FIRE DEPARTMENT INTRODUCTION 紹介

























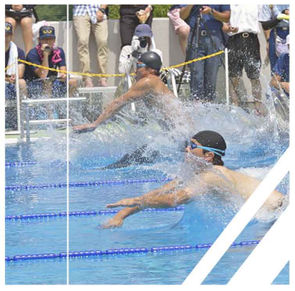












物語は、未来へ













５０周年記念エンブレム

全職員対象に記念エンブレムを
募集し決定しました
不死鳥はどんな災害現場からも
帰ってくるという強い思い
消防ホースのピンク色は大口町のさくら
黄色は扶桑町のひまわりを
イメージしてデザインしました